

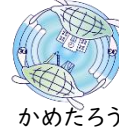
学校教育目標：「向学 自主 協働」

校訓：「夢を実現」



川通中だより

令和7年7月1日 第4号
さいたま市立川通中学校
TEL 048(799)1061
川中キャラクター ホームページ



～スローガン：「一生懸命はかっこいい」～

「思いやりを実践すること」

校長 鈴木 純

断続的に強い雨が降ったり、かたや、ムツとした太陽が照り付けたりと不安定な天候が続いています。そんな中、学校図書館側の花壇に去年植えたアジサイが紫や薄ピンクの花を咲かせ、目を楽しませてくれています。

さて、前回の講話朝礼では、「思いやりをもとう」という話を生徒のみなさんに話しました。その後、「Believe」をみなさんに聴いてもらいましたが、作曲した杉本竜一さんのメッセージをあらためて紹介します。

「信じることの大切さ」をこの曲に託しました。人間一人一人が、ほんのちょっとした思いやりを他人や自然に対してもつだけで、世の中が明るくなるのではないかと私は考えています。それは、大げさな行動をとるということではなく、お互いに道をゆずり合うとか、困った時に助け合うというような身近なことです。

杉本さんの言うように、この「ほんのちょっとした思いやり」をもつことで心が明るくなることってたくさんあるはずです。ぜひ、日々の生活のなかで心がけてみてください。

では、私の「思いやり」にまつわるエピソードを紹介します。

私は機会があるごとに山登りに出かけます。数年前の夏には、福島県にある磐梯山に登りました。私が山登りで必ず実践していることは、他の登山客とすれ違うとき、必ず道を譲り「こんにちは」と、あいさつを交わすことです。こちらから声をかけると、相手からも気持ちのよい「こんにちは」が戻ってきます。中には「頂上までもうすこしだから、あと少しの辛抱ですよ」と返してくれる健脚の方もいます。このようにあいさつを互いに交わしていると、「この先も頑張ろう」という気持ちになぜかさせてくれるのです。では、なぜ、見知らぬ人とあいさつを交わすことにより、このような気持ちになるのでしょうか。それは、あいさつを交わしている間に、ともに山を愛する人同士という感覚や頂上を目指すという同じ目標を持った人同士であるという感覚から、仲間意識がどこかに生まれてくるのではないかと推測します。

ウグイスの達者な歌声に耳を傾け、ひっそりと咲いている花々を見るために登っていく道は、決して容易な道ではありません。でも、頂上からの雄大な眺め、一步一步踏みしめて登りつめた達成感やすがすがしさがたまらず、また、山登りの計画を立ててしまうのです。

話変わって、みなさんも経験があると思います。自転車に乗っていて、突然チェーンが外れてしまったこと。どうしますか。自分で直す。家まで引いて帰る。近くの自転車屋さんに行く。近くの大人に助けを求める。そんな状況困りますよね。

ある日の夕方、辺りも暗くなりかけてきた時です。女性が自転車を引いて歩いていたのを信号で停車中の車内から見かけました。信号が変わり一度通り過ぎたものの、小雨も降っており、気になったので、元に戻って思い切って声をかけることにしました。女性の進む方向に止まった車から降りてきたおじさんが声をかける図式は、「不審者に間違えられるかも」とドキドキしながら、「チェーンが外れたんですか」と尋ねました。女性は、突然のことで驚きを隠せなかったようでしたが、「はい」と小さくうなずいたので、私はチェーンが外れて走れない状況であることを認識しました。「直してみますね」と声をかけ、噛んでいるところを素手で取り除き、ペダル側のギアにチェーンをひっかけ、逆回ししたところ、うまい具合にギアが噛み合い、すぐに元に戻すことができました。あっという間に直ってしまったので、女性は驚いていたようです。私は「気をつけて」と一声かけて、その場を立ち去りました。帰り際、心の中で「ひょっとしたら迷惑だったかな」とも思い、微妙な心持でその場を後にしました。みなさんだったらどうしますか。

「思いは見えないけど 思いやりは見える」 宮沢章二